

矛盾モデルと根源的網羅思考による人類史の論理と価値実現

Logic of Human History and Realization of Value by Contradiction Model and Radical Enumerative Thinking

高原利生

TAKAHARA Toshio

1. まえがきと準備

ユバル・ノア・ハラリは「サピエンス全史, 文明の構造と人類の幸福」(河出書房新社 2016)で人類史を総括した。本稿では別モデルにより別の総括を行い新しい「幸福」を探す。

人類の客観的価値実現と個人の主観的「幸福」が双方向の入れ子になった統一が必要である。

「哲学(歴史と現実を総括して得た世界観-価値観-粒度決定-方法,論理)-行動」の連鎖が生きることである。粒度は物事の大きさで、粒度の決まった二項間の関係は、世界の最小単位のモデルである矛盾モデル[FIT2017]にも、思考の論理と命題の変更にもある。どちらも根源的網羅思考[FIT2017]により粒度を求め続ける。

準備1: 弁証法論理の普通の意味の矛盾である両立矛盾は、一回、解が出れば終わる。永遠に二項を変更する解を出し続ける一体型矛盾[FIT2017]がある。全体がAとBで網羅されているとき、その全体に関して、Aの反対はBであるという。このA、Bを二項とする一体型矛盾がある。これはA、Bを良くし続けながら永久運動をし得る。

準備2: 対象化はオブジェクトを自分から切り離し操作する態度,行動である。対象化の価値基準は、変更能力である自由の大きさである。対象化の反対概念は一体化で、一体化は自分とオブジェクトを包み一体化する愛の態度,行動である。その価値基準が愛の大きさ,強さである。[FIT2013]

仮説: ヘーゲルの論理学では、物事に内在する論理が展開して現実の運動が行われる。この場合、論理は歴史と一致する。歴史から抽出された発展の論理が、理想の価値を作る論理になり得るといふ仮説ができる。

2. 人類の歴史

人類が誕生したのは、200万年前である。技術が新しい価値の可能性を開きつつそれを実現していく。

1) 六千年前、物々交換の成立[FIT2017][CGK2017]

人の、火と道具のある利用という技術の発展時期が、たまたま地球の多様な自然条件、四回目の氷河消失に重なり、一万年前に太陽エネルギー利用による農業革命を起こした。人は、農業革命によって本格的に対象化を開始した。六千年前に物々交換がはじまる。[THPJ2012]

2) 四千年前からの文化,文明の進展[FIT2017][CGK2017]

物々交換成立後、二千年かけて制度,文化が発展する。物々交換は、対象の自分(たち)への一方向の一体化である所有と同時に成立した。一方、人口増加は、形成された大きな集団への帰属という一方向の一体化を起こす。

農業革命におけるエネルギーと自然の対象化は、科学を生み、人と人の関係の問題が生じるほど生産量と人口を大幅に増やし、人を大きなものに向き合わせ自然と人の両面での一体的生き方を必要とさせるようになる。

物々交換から二千年遅れて、謙虚に自然や神に向き合う一方向の一体化ができる。

しかし他の集団の排除意識を生む悪しき帰属のように、あるいは所有していないものを大事にしない悪しき所有のような一方向の一体化という不十分さがあつた。[FIT2017] まだ多様な個は確立していない。

3) 250年前からの対象化の進展[FIT2017][CGK2017]

250年前、産業革命、資本主義は、化石エネルギーの利用により大規模な対象化を進めた。[IEICE2016]

対象化が進むと対象に対する操作変更力が高まる。しかし、対象化は、双方向一体化における謙虚さ、愛が不十分なまま進行している。

4) 今、対象化(と自由,批判)と一体化(と愛,謙虚さ)の統一と、多様性が必要

1. 対象化の画期的進展は、対象そのものに対する責任も大きくする。しかし対象化だけで対象の価値を高めることはできない。対象の価値を高める手段が要る。一体化(愛,謙虚さ)と対象化(自由,批判)の両方を必要としている。[FIT2013][CGK2017]

2. 産業革命を経て対象化が進み、多様な個性も発展していく。多様性は対象化から生まれ,管理を必要とする。

一方、今の一方向一体化は、他を排除する帰属感による多様性否定と、所有のみ重視して多様な価値の軽視をもたらしている。多様性と単一性の両方が必要になっている。

5) 今後

今1. 対象化と(双方向)一体化を統一する態度、行動、
2. 多様化と単一性を統一する態度,行動,管理の二つの一体型矛盾が同時に必要かつ可能になる時代を迎えている。

これにより、新しい原動力によるポスト資本主義と新しい生き方が必要かつ可能になっている。

一瞬の生き方の理想は、対象化,自由,弁証法的批判と、一体化,愛,謙虚さの統一である。今の個の生きる一瞬に、全歴史,全世界の問題解決が進みつつある客観と、そこへの参加の主観が同時に得られ、今、始めて全員が客観と主観が統一された生き方のできる可能性が生まれている。

この実現のための思考、議論支援を、データベースと人工知能で行うのが良く根源的網羅思考はそれに適している。[CGK2017]

3. 謝辞

常にご支援いただく中川徹教授に厚く感謝する。

参考資料

引用資料は、中川徹教授のウェブサイト

[http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/\(C\)](http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/(C))「学会等発表・研究ノート・技術ノート」高原利生論文集 1,2,3 参照。

[FIT2017] TAKAHARA Toshio, “World View, Attitude and Logic of Life to Survive in the Universe”, FIT2017, O-018, 2017.

[CGK2017] TAKAHARA Toshio, “Radical Enumerative Thinking and Contradiction as the Way of Life”, 電気・情報関連学会中国支部連合大会, R17-25-07, 2017. [http://www.geocities.jp/takahara_t_icece/]

[<http://maganetoru.blog.fc2.com/blog-entry-1046.html#comment701>]